

# 第100回 薬剤師国家試験問題検討委員会「法規・制度・倫理」部会 報告書

平成27年5月29日

日時 平成27年5月9日(土) 13:30~17:00

場所 横浜薬科大学薬学部

出席者 (内訳別紙)

私立大学	55校	66名
国公立大学	10校	10名
計	65校	76名

委員長名	中村 武夫
所属大学名	近畿大学

## 1. 総合評価

全体的に、適切な難易度が保たれており、薬剤師としての業務を遂行に必要な法的知識、医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範的知識や態度について問われており、薬剤師国家試験としては概ね妥当であったと評価される。必須問題および薬学理論問題については、薬剤師として必要な基本的事項から応用事項まで問われており、出題形式にも工夫がなされ、例年以上に良問であったと高評価される。薬学実践問題においては、複合性が弱く、単問として成立すると感じられる設問も散見されるが、薬剤師国家試験問題としては一定の評価ができる。

## 2. 各項目の評価

### 1)「誤りがあると判断された問題」

なし

### 2)「問題の観点から不適切である問題」

理論 問149、150 いずれも問題文が長く、理論問題というよりも、実務領域の問題であるとの意見が多かった。また問150の「防衛機制」は精神分析学領域の内容であり、法規・制度・倫理領域外ではないかとの意見があった。

実践 問323 本領域ではなく、病態・薬物治療領域の医薬品情報で出題すべき内容ではないかとの意見があった。出題基準においては、法規・制度・倫理領域の社会保障と薬剤経済【中項目】の薬剤経済・医療統計【小項目】に例示されている「薬物治療の経済評価の意義、評価手法」に該当し、法規・制度・倫理領域からの出題と解することもできる。

実践 問325 ヒヤリ・ハット事例については、実務領域の薬剤師業務【大項目】のリスクマネジメント【中項目・小項目】からの出題が望ましい。法規・制度・倫理領域のヒューマンズム【大項目】の医療の担い手としてのこころ構え【中項目】の医療行為【小項目】に例示された「医療事故回避の重要性」や医薬品の創製と供給【小項目】に例示された「医薬品の使用に関わる事故回避の重要性」と無関係とは言えないが。

### 3)「問題・選択肢の表現が不適切である問題」

必須 問75 選択肢2の「フェニルプロパノールアミン」については50%以下の含有物は覚せい剤原料から除外されるため、表現に工夫が必要である。

必須 問78 数値の正誤を問うなら、どの時点での国民医療費なのかを明示すべきである。

理論 問145 「薬店」という表現は、法規の理論問題としては曖昧な表現である。

実践 問321 患者への説明において「再評価」といった専門用語が含まれている。患者が理解しやすい表現で説明するのが医療の担い手の役目である。

4)「複合性が不適切な問題」

実践 問307、319 問306(実務)、問318(実務)の事例に基づかなくても単問として成立する。

実践 問315、317 オキシコドンおよび塩酸という共通の物質に関する設問であるが、単独の理論問題である。

実践 問323 薬剤1,2の費用対効果に関する設問は単独で成立する。

実践 問325 問324(実務)は保険薬局での事故であるのに対し、問325(法規・制度・倫理)では医療機関におけるヒヤリ・ハット事例である。

5)「授業で触れていない問題」

理論 問148 「遺伝子治療臨床研究に関する指針」については教えていないとの回答が多かったが、被験者の人権保護という観点から正解を導き出すことができる。

理論 問150 「防衛機制」という用語は精神分析学領域で使われるものであり、教えていないとの回答が多かった。事例内容から正解は導き出すことができる。

その他特記事項

問307、308は解を2つ選ぶ問題であるが、いずれも選択肢が4つである。5択とするのが望ましいのではないか。

3. 各問題の評価

別紙1のとおり

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
必須問題	71	0	65	0	4	60	1	0	64	1	2	63
	72	0	65	0	0	65	0	1	64	0	3	62
	73	0	65	0	0	65	0	0	63	2	3	62
	74	0	65	0	2	62	1	0	65	0	3	62
	75	0	65	0	1	63	1	3	59	3	5	60
	76	0	65	0	0	64	1	0	65	0	1	64
	77	0	65	0	1	64	0	1	62	2	3	62
	78	1	63	1	0	64	1	2	60	3	5	60
	79	0	64	1	1	63	1	0	62	3	5	60
	80	0	64	0	0	64	0	2	61	1	1	63
一般問題 (薬学理論問題)	141	0	65	0	0	64	1	0	65	0	3	62
	142	0	65	0	0	62	3	5	60	0	12	53
	143	0	65	0	0	64	1	0	65	0	5	60
	144	1	62	2	0	63	2	2	59	4	4	61
	145	1	62	2	1	63	1	1	62	2	5	60
	146	1	63	1	4	60	1	3	60	2	8	57
	147	0	63	2	1	63	1	3	60	2	3	62
	148	0	65	0	5	54	6	1	61	3	24	41
	149	0	63	2	2	58	5	2	60	3	11	54
	150	0	64	1	3	55	7	1	60	4	31	34

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
一般問題 (薬学実践問題)	307	0	64	0	0	64	0	2	61	1	2	57	5	5	59
	308	0	63	2	2	59	4	6	56	3	0	63	2	13	52
	311	0	65	0	0	65	0	1	64	0	1	63	1	4	61
	313	0	64	1	1	61	3	0	61	4	1	60	4	10	55
	315	0	65	0	0	65	0	1	64	0	1	62	2	3	62
	317	0	65	0	0	65	0	1	64	0	1	62	2	2	63
	319	0	65	0	0	65	0	0	64	1	3	61	1	3	62
	321	0	65	0	0	64	1	4	57	4	1	63	1	2	63
	323	2	62	1	0	59	6	1	60	4	1	55	9	16	49
	325	0	64	1	3	57	5	3	58	4	3	54	8	18	47

(注)無回答:「わからない(判断できない)」を表す。また、数字は回答大学数である。